

4 縄文時代の生業^{せいぎよつ}

縄文人の生活といえば、これまで「狩猟」「採集」を中心としていたという考え方が一般的でした。しかし、調査の結果、特定の植物の育成に適した環境を整え、生活に有用な樹木の管理をしていたことがわかりました。

例えば、中期になってクルミを管理するために、それまで湿地に生えていたハンノキを伐採していたことが花粉の分析からわかりました。ただ自然の恵みを享受するだけのこれまでのイメージとは異なる、積極的な自然との関わり方が見えてきました。



クルミの殻の廃棄場所（第1号クルミ塚）



出土したトチノキの実



トチノキの実のアク抜き場（第1号木組遺構）

5 デーナタメ遺跡の特性

デーノタメ遺跡の第4次調査は、全国的に調査事例の少ない縄文時代中期（約4,800年前）と後期（約3,900年前）の水辺空間を明らかにするものでした。また、泥炭層から出土した漆塗土器は質・量ともに優れ、7箇所^{なみす}に及び種実の廃棄遺構は、縄文人の「食」の実態に迫るものとして大変貴重なものとなりました。

さらにこの遺跡を特徴付けているのは、台地上に中期と後期の集落が良好に遺存し、それぞれと密接にかかわる水辺空間が近接して残っていることです。縄文時代中期から後期にかけて、植物質資源の利用方法、集落周辺の植生、水場の構造や利用形態はどのように変化していったのでしょうか。デーノタメ遺跡には、これらの疑問に答える多種多様な情報が秘められているのです。

縄文のタイムカプセル

「デーノタメ遺跡が語るもの」展

開催期間:平成27年6月23日(火)～開催中 ※日曜・祝日を除く
市役所1階・展示スペースにて



デーノタメ遺跡

遺跡の位置

1 はじめに

きたもともしもいしとしもちない
北本市下石戸下地内に所在するデーノタメ遺跡には、縄文時代中期(約 4,800 年前)と後期(約 3,900 年前)の集落が良好な状態で保存されています。

この遺跡の一角が「低湿地遺跡」であったため、うるしぬりどき漆塗土器や木製品、クルミ、トチノキの実など、通常の遺跡では残らない有機質の遺物が多量に出土しました。

いろど赤と黒に彩られた漆塗土器や、豊富な有機質の遺物などから、当時の人々の生活に思いを馳せていただければ幸いです。

2 低湿地遺跡とは

第4次調査では、通常の遺跡では残らない漆を塗った土器や有機質の遺物などが多量に出土しています。これらが腐らず残ったのは、この調査区が、泥炭層が堆積する「低湿地遺跡」であったからです。

低湿地遺跡とは、台地の下の低地に水漬けになっている遺跡のことで、通常では分解されてしまう有機質の遺物が良好に保存されるという特徴があります。この遺跡では、デーノタメと呼ばれる湧水が低地を満たし、タイムカプセルのように縄文時代の遺物を今に伝えたのです。



調査風景

3 漆塗土器

デーノタメ遺跡から出土した遺物の中には、黒漆と赤漆で彩られた漆塗土器が多量に出土しています。黒漆を下地として、刷毛のような道具でダイナミックに赤漆が施されたデザイン性は、今でも目を見張るものがあります。

通常の遺跡では、漆は酸素や紫外線によって失われてしまいましたが、地下水によってパックされていたため、昨日塗られたかのような色合いで出土しました。特に縄文時代中期の漆塗土器は全国的に類例が少なく貴重です。



漆塗土器 (約 4,800 年前)